

ボランティアガイド

閑静な住宅街の一角にあるマンションの扉を開けると、生温かい生き物のおいと小鳥の鳴き声。外から見れば普通の家だが、内部は緑色のネットを蚊帳のように部屋中に張り、小鳥たちが自由に飛べようとしている。ここがNPO法人小鳥レスキュー会の本部だ。

ここでは拾われたり、飼い主らから持ち込まれた小鳥たちを保護している。6月には40羽増えて、総数は500羽弱。大小さまざまな鳥がいるが、文鳥やジュウシマツなどの小鳥が多い。天井近くの縄から木のプランコに飛び移

NPO法人小鳥レスキュー会

り、人の手の届かない距離を保ちつつも、つぶらな瞳で人を見つめ、首をかしげる。小鳥好きにはたまらない動きだろ。

「かわいいと思って飼い始



めたけれど途中で心変わりした飼い主が手放した鳥や、高齢化したブリーダーが手放した鳥、警察に拾得物として保護された鳥など、いろいろなボランティアスタッフには、ケージの掃除などの手伝いをお願いしています」(代表理事の上中牧子さん)

上中さん自身、1日に14時間以上も世話を続

け、家族にあきられるほどだという。

「犬猫の保護団体は多いけれど、鳥の団体はほとんどありません。鳥は翼があるから放しても生きていけると思われが



NPO法人小鳥レスキュー会
URL: <http://www.kotori9.org>
問い合わせ: 090・8010・2000
bono@kotori9.org
「ボランティアの中には『昔飼っていた小鳥を幸せにできなかったから、今ここで学びたい』という人もいます」

ちですが、そんなことはありません。実際、保護動物は犬猫以外が増えており、外来種の繁殖も問題になっていま

す。私は鳥類が好きだったので団体を作りました。同じように鳥が好きなお人々には、何ができるかをぜひ一緒に考えて

拾われたり持ち込まれた500羽を保護

る施設ができることを夢見て奮闘している。(松本佳代子)